



大正時代の岩美駅
(自動車輸送時代の到来)

資料提供: 山本知恵子氏



大正時代の物流

資料提供: 吉田政博氏



資料提供: 県立図書館

鳥取新報(明治43年6月10日)より抜粋
祝開通:
岩井温泉各旅館や浦富各商店
各輸送会社を掲載

◆一九二六

(大正一五年)

一月二〇日

岩井軌道の営業開始
岩美駅〜岩井温泉まで
3・4キ(最初は旅客のみ、
後岩美鉾山の鉾石も運搬)

資料4参照



岩井温泉駅

資料提供: 県立博物館

『白雲悠々裏日本の旅』 藤島愛泉 著より

夏の朝の白雲悠々、涼風を追うて行く自分は今しも岩美駅に下車した。乗客は一等車から三等車から蜘蛛の子の如くに吐き出されて、どやどや人々は争つて腕車に乗る、40台の人車はみるみる尽きてしまった。連絡キップを持ちながら空しく停車場に佇立したまま茫然たらざるを得ない者20余人、自分もその一人であった。
岩美駅長は車夫を指揮して、この通り客が待つ居るから、大急ぎで帰って来んか」と右に左に軋旋の勞をとっている。つづく...

資料4



中央 後藤新平、
左から2番目 木島よし

資料提供: 吉田政博氏

この頃より駅前に
運送店・旅館・雑貨屋などができはじめた。

資料3参照

岩美駅命名は
桂太郎総理大臣の裁定による。

資料3



網代港の風景

資料提供: 県立博物館

翌日、浦富の澤田家別荘で休憩、
網代港視察。

資料2参照

岩美駅命名は
桂太郎総理大臣の裁定による。

岩美駅営業開始。
資料1参照

岩美駅舎完成。

山陰線の着工

《新岩美町誌より》

明治維新後、鉄道建設が県下でも具体化し、明治35年には境を基点に実測が始まっていた。



木島よし

およしさん

岩井「木島屋」旅館の女将

明治37年鳥取駅前支店を出すなど飛躍をとげ、木島屋の鳥取進出を果たした。

“およし”は、鉄道敷設コースを何としても山陰の温泉郷岩井に山陰線を引き寄せようと本県出身の官僚や財界人・政治家に路線変更の協力を求め、明治40年には単身上京して、当時鉄道院総裁 後藤新平 “らに陳情を繰り返した。が時既に遅し。そこで およし は明治43年山陰線視察のため来県した 後藤新平” 鉄道院総裁に高山と駅を結ぶ直線道路の建築許可を取り付け明治45年2月開通させた。これが「およし道路」である。

鉄道路線

鉄道敷設コースは明治35年の「因伯時報」に元岩井郡山陰縦貫鉄道既成同盟会の決議が掲載されているが、それによると、鳥取から駒馳山を経て本庄・牧谷・東を経て海岸線に沿って兵庫県の浜坂にぬけるコースの採用を決議。これは現在の路線そのものである。【図参照】

駅名の決定

時の内閣総理大臣 桂 太郎 の裁定により郡名を用いることで決定。

